




審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1328 号	氏名	小笠原 尚之
審査担当者	主査	安部 尊思	
	副主査	赤木 由人	
	副主査	行原 真一	
主論文題目： Longitudinal Changes in Health-related Quality of Life After ¹²⁵ I Low-dose-rate Brachytherapy for Localized Prostate Cancer (限局性前立腺癌に対する I ¹²⁵ 密封小線源療法後の縦断的健康関連 QOL に関する検討)			

審査結果の要旨 (意見)

限局性前立腺癌に対する治療選択肢はいくつかあるが、密封小線源治療もそのひとつである。本疾患の多くは予後は良好であり、治療効果に対する患者の満足度も高いと思われるが、機能を含めた定量的な評価は行われていない。

健康関連の QOL の経時的変化をいくつかの指標を用いて検討した結果、精神的満足度は高く、排尿に関する機能は一時期低下するが元の状態に戻る。しかし性機能は一過性の悪化後に改善はするものの元には戻らないことを明らかにしている。

治療後の長い人生における生活における機能低下の意義を十分に説明できることは治療において求められるインフォームドコンセントの 1 項目として重要な点であり、本論文はその一面をを明示している。臨床的に重要な知見をもたらしたと評価され学位論文に値すると考える。

論文要旨

限局性前立腺癌に対する I¹²⁵ 密封小線源療法は、手術療法、放射線外照射療法と遜色ない、有効な治療法である。限局性前立腺癌に対する治療選択には、制癌性のみならず、治療後の健康関連 QOL (HRQOL) も重要である。現在、HRQOL の経時的変化に関連する因子は明らかではない。

本研究は、限局性前立腺癌に対する I¹²⁵ 密封小線源療法後の HRQOL の経時的変化と予測因子の評価を目的とした。本研究では、密封小線源療法を施行した限局性前立腺癌患者 180 人を対象とした。HRQOL は、国際前立腺症状スコア (International Prostate Symptom Score)、Medical Outcome Study 8-Items Short Form Health Survey (SF-8)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校前立腺がん指数 (UCLA-PCI) を用いて、密封小線源療法前、治療後 1、3、6、12、18、24、36、48 ヶ月後に評価した。結果、UCLA-PCI の性機能スコアと SF-8 の精神的サマリースコアを除くすべての HRQOL スコアは、初期の一過性の悪化の後、ベースラインまで改善した。性機能スコアは初期の一過性の悪化後、最終的にベースラインまで改善を認めなかった。精神的サマリースコアは治療後の有意な低下は認められず、上昇傾向を示した。前立腺 V100 とベースラインの性機能スコアは、治療後後期における臨床的に有意な性機能の低下を予測した。この結果は、特に治療前の性機能が温存されている患者やそのパートナーにとって、より正確な情報を提供する可能性がある。